

## 大学名：岡山大学

ASPUnivNet の 4つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します (加盟に関する相談も含む)	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	加盟を希望する地域の学校から具体的に相談があり、面談およびメールで対応した。
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	できている。チャレンジ期間実施校も、加盟校のネットワークの活動に参加するようにして頂き、先進校の実践事例を具体的に学べるように支援している。
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	できている。具体的には、岡山県ユネスコスクール高校ネットワークの活動としての各学校の実践発表および防災ワークショップ、海外の大学生・研究者との交流会・コラボレーションの企画・実施を通じてそれぞれの「質の向上」にかかわる支援を行うことができている。 <a href="https://edu.okayama-u.ac.jp/esd-topics/esd-topics-7858/">https://edu.okayama-u.ac.jp/esd-topics/esd-topics-7858/</a>
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	ユネスコスクールからの要望に応じて、加盟校（岡山県立林野高等学校）の生徒対象の総合学習発表会において講演を行った。 <a href="https://x.gd/r9PTi">https://x.gd/r9PTi</a>
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	できている。2023年5月・3月および2024年5月に岡山県ユネスコスクール高校ネットワークの教員を対象とした研修会を開催した。また、上述のように、県内の加盟校と協働し、2023年8月に学習会、2024年11月に実践交流会を開催した。 <a href="https://edu.okayama-u.ac.jp/esd-topics/topics00001/">https://edu.okayama-u.ac.jp/esd-topics/topics00001/</a>
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	上述のように、岡山県ユネスコスクール高校ネットワークと協働で、防災×ESD×ユネスコスクールをテーマとして、学習会・実践交流会を実施し、実践交流会では各学校で取り組んだ内容に基づくワークショップを実施。企画段階において、様々な防災に関する学習を推進し、地域の内外に拡張させるモデルプロジェクトを開発することができた。2023年11月の実践交流会では、加盟校の防災に関わるコンテンツ（エコロジカルな防災グッズ、啓発ゲーム、マイタイムラインのメニューなど）を持ち寄り、お互いに教えながら制作するという形式に発展させ、さらに海外で同様の課題に取り組む大学生・高校生のチームとも繋がり、オンラインでの学習会を開催する

		などしている。
3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	RCE 岡山の主催するユースを対象とした ESD および SDGs 推進の企画に、岡山県ユネスコスクール高校ネットワークを支援する OBOG 学生スタッフを参画させるようにし、その際に県内外の様々なステークホルダーに向けて、ユネスコスクールの活動とその意義について、自らの経験を絡めながら発表することができている。
	② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	まだ十分とは言えないが、学生スタッフの活躍により、ユース団体どうしのつながりが全国的に広がり始めている。
	③ ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	あまりできていない。岡山県教育委員会高校教育課の先生とは高校ネットワークの交流会の様子について情報共有し、参加して頂く程度の連携ができている。
4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します	① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	上述したように、RCE のユースに関わる企画にユネスコスクール OBOG 学生スタッフが参画することにより、その存在と意義について知らせることができている。 また、International Conference on Sustainability Education 等の国際会議や教員研修会において、ユネスコスクールの存在と意義について発表を行っている。
	② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	上述の岡山県ユネスコスクール高校ネットワークでは、岡山県以外の加盟校で中四国地域の新規加盟校にも情報共有を行い、参加を呼びかけている。昨年度は加盟を検討している兵庫県や、島根県の加盟校も研修会・交流会等に参加している。
	③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	2024 年度もインドネシアの学校と福山市の加盟校を繋ぎ、小学校 6 年生が総合学習で学んだ内容について意見交換したり、全校生徒が参加するオンライン交流や、児童が地域の歴史遺産について学習した際に制作した作品を送付したり、動画を送り合ったりするなど、交流を続けることができている。 <a href="https://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-ekinishi/schoollife_topics.html">https://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-ekinishi/schoollife_topics.html</a> また、2024 年 8 月に、交流を続けるマレーシアの研究者の仲介で、加盟校の教員 2 名がマレーシア国内の学校を訪問し、ユネスコスクールの実践発表を行ったり、加盟を検討している教員らと協議したりし、今後のプロジェクトの企画について協議できるように支援した。11 月には、マレーシアの研究者らが実践交流会に参加し、加盟校（岡山市立後楽館高等学校）を視察・訪問し、

		<p>教員と交流した。上述したように 12 月には、教員が訪問した学校どうしが、生徒・大学生を交えてオンラインで学習会を実施できるようにした。</p> <p><a href="https://x.gd/04GS1">https://x.gd/04GS1</a></p>
5. 大学内の活動	① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	十分広くとは言えないが、教育学部の新入生のオリエンテーションの中で ESD・SDGs 教育コース（新設）を説明する際や、ESD に関連する講義の中で、触れることができています。
	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	担当する ESD の授業において、ユネスコスクール加盟校（学区）の取り組みについてその成果と課題について学び、実際に学生を当該学区での活動や、探究学習に参画させ、加盟校の児童・生徒との交流や体験活動を進めている。
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	できている。
	④ その他	
6. ASPUnivNet のネットワーク機能の活用	① 加盟大学間で情報共有ができた。	ニーズが無かったため、できていない。
	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	ニーズが無かったため、できていない。
	③ その他	